

金沢大学法務研究科  
2012年度「法理学」小テスト  
6月6日1限実施/ 出題: 足立英彦  
解答・解説(仮)

1. 次の語句をそれぞれ1~3行で説明せよ。(各3点)

(a) 論理的に正しい推論

解答1 前提がすべて真であるようなあらゆる場合に、結論も真になるような推論。

解答2 前提がすべて真なのに結論が偽になるような場合のない推論。

(b) 規範

解答 規範とは、義務様相を含む命題である。

(c) 一般規範

解答 一般規範とは、具体的に名指しされない不特定の人すべてを名宛人とする規範である。

(d) ルール

解答 ルールとは、定められた条件が満たされる場合に、必ず定められた効果が実現されることを命じる規範である。

2. 次の推論は論理的に正しい推論であるか。真理表を用いつつ説明せよ。(各2点)

(a)  $A \rightarrow B, B \vdash A$

解答

A	B	$A \rightarrow B$	B	A
t	t	t	t	t
t	f	f	f	t
f	t	t	t	f
f	f	t	f	f

問の論証は、前提がすべて真で結論が偽の場合(反例)が3行目にあるので、論理的に正しい推論ではない。

(b)  $A \wedge \neg A \vdash A$

解答

A	$\neg A$	$A \wedge \neg A$	A
t	f	f	t
f	t	f	f

問の論証は、前提が真で結論が偽の場合(反例)がないので、論理的に正しい推論である。

解説 問の論証では前提( $A \wedge \neg A$ )は常に偽である。つまり、前提が真になる場合はない。したがって、前提が真で結論が偽になる場合(反例)もないので、論理的に正しい論証である。このように、前提に矛盾する命題が含まれている推論は、結論が何であれ、常に論理的に正しい推論である(矛盾からは何でも出てくる\*1)。

\*1 戸田山和久『論理学をつくる』(名古屋大学出版会、2000年)65頁。

3. 「Vは許されている」(Vは、「ある人 a が何らかの行為 V をする」という命題) という規範と以下のそれぞれの規範の間をそれぞれ一語で述べ、また、この規範が真である場合の、それぞれの規範の真理値も述べよ。(各 2 点)

(a) 「Vは禁じられている。」

解答 矛盾、偽。

(b) 「Vでないことが許されている。」

解答 小反対、真または偽。

(c) 「Vは命じられている。」

解答 含意(「Vは命じられている」が「Vは許されている」を含意している)、真または偽。

4. 次の文を論理式で書け。ただし、次の解釈を用いること。(各 1 点)

Kx 「xは金沢市民である」 Sx 「xは温泉に入る。」 Tx 「xは入湯税を払う。」

(a) 誰も温泉には入らない。

解答  $\forall x \neg Sx$  または  $\neg \exists x Sx$

(b) すべての金沢市民は温泉に入る。

解答  $\forall x (Kx \rightarrow Sx)$

(c) 温泉に入る金沢市民がいる。

解答  $\exists x (Sx \wedge Kx)$

(d) 温泉に入る人は入湯税を払わなければならない。

解答  $\forall x (Sx \rightarrow OTx)$

(e) 入湯税を払わなくてもよい金沢市民がいる。

解答  $\exists x (Kx \wedge P \neg Tx)$  または  $\neg \forall x (Kx \rightarrow OTx)$

5. 行政の行政行為と裁判所の裁判の共通点を、私人の法律行為や国会の立法行為と対比しつつ説明せよ。(3 点)

解答 行政行為と裁判は、どちらも、法的三段論法を用いなければならないという点が、すなわち、一般的法規範である法令と、事実を表す命題とから、論理的な推論によって個別的法規範を導き出さなければならない、という点が共通している。これに対して、私人は法律行為において、国会は立法行為において、強行法規や憲法に反しない限り、法的三段論法によらずに、自由に法規範を定めることができる。

6. 講義に対するご意見、ご感想、改善提案等があれば、答案用紙に記入してください。

回答 ご批判はありませんでした。

参考情報 (6 月 8 日現在)

履修登録数	受験者数	平均点
9	9	24.7

\* 28 点 1 名、27 点 2 名。

以上